

# 生まれ変わった町並みの完成を祝う

## 厚真中央土地区画整理事業完成祝賀会が福祉センターで

厚真町厚真中央土地区画整理組合（市原泰雄理事長）による同事業の完成祝賀会が十一月十二日、総合福祉センターで組合員、関係者約六十人が参列して行われました。

主催者を代表して市原理事長が「平成九年十月に着手して以来九年间、振り返ってみればいろいろな思いがある。この事業の完成は、地域住民と行政が力を合わせてやり遂げた事業」とあいさつ。続いて、藤原町長が「町長に就任して最初に取り組んだ大型事業。組合員の意気込みと熱意が私に勇気を与えてくれた」、また、岡部純町商工会長が「この新しい町並みの完成が、より魅力あるまちおこしの起爆剤になることを願っている」と祝辞を寄せました。

祝賀会では終始、完成を喜ぶ和やかな雰囲気になっていました。



あいさつをする市原泰雄理事長と表町公園に設置された事業完成記念時計塔(左下写真、高さ6m、3方向に時計、デジタル温度計付き)

## 厚真柔道ここにあり！ 日胆大会で好成績

11月5日、苫小牧市で開かれた「第53回日胆柔道選手権大会」で厚真柔道スポーツ少年団（渡部孝樹育成会長）の団員が参加し、団体優勝や個人優勝を飾るなど素晴らしい成績を収め、厚真柔道の存在を強くアピールしました。

成績は次のとおり。

団体戦／小学1・2年生の部優勝（澤田昇磨、岩崎貴志、山田耕司）、中学生の部準優勝（畑嶋孝優、兜谷翼、松永将弥、小納谷政士、森田昂太）、個人戦／小学6年生女子の部優勝（畑嶋優花）、同2年生の部優勝（谷口歩紀）、

好成績を収めた厚真柔道少年団員



中学生男子73kg超級準優勝（森田昂太）、小学6年生女子の部準優勝（岩崎あかね）、中学生男子73kg以下級第3位（畑嶋孝優）【敬称略】

人気を集めた精米したての新米



## 新米の杓売り大人気 新鮮組が苫小牧で物産展

11月5日、ホクレンショップ（苫小牧市）で町内の農協、漁業、商工会各青年部員で組織する、あつま新鮮組（麻生敏和会長）が厚真の特産品をPR・販売しました。

今年が初めての試みで、店舗前に3棟のテントを張り、あつま新鮮組ののぼりを掲げ、所狭しと特産品を陳列。

特に人気を集めていたのが新米で、2台の精米機を持ち込みその場で精米して実演販売。擦りたてで温かさが残る米を、お客さんが一升杓で山盛りにすくう姿が見られました。

# まちの話題

11月2日、中央小学校(近藤茂校長)で平成18年度火災予防作文コンクールの表彰式が行われ、加勢未空さん(同校4年)に胆振東部消防組合尾谷常夫消防長から優秀賞が授与されました。

このコンクールは、北海道が火災予防運動の一環として行っているもので、同組合管内から加勢さんをはじめ5人が応募。加勢さんの書いた「社会の勉強で学んだこと」が特に優秀な作文だったことから表彰されました。全校児童が見守る中、賞状を受け取った加勢さんは、うれしそうな表情を見せていました。

## 火災予防作文で加勢未空さんに優秀賞



11月15日をもってクローズした新町と上厚真パークゴルフ場に、17と20の両日、パークゴルフ協会会員や自治会の方々为中心となって、目土入れなどの補修作業を行いました。

町内外からたくさんのお愛好家でにぎわった新町PG場には17日、同協会などが2班に分かれ、いたわるようにスコップで土を入れ熊手でならしていました。来春のオープンには、町民の方は4月中旬の予定。



## シーズンを終えPG場を補修

## ヒマワリの油を搾って車の燃料にするぞ!



力をこめて油を絞る児童たち

十一月八日、上厚真小学校(横山守校長)四年生の学級で、苫小牧工業高校の新山雄士教諭と生徒六人が訪れ、ヒマワリの種から油を搾り、バイオカー(四輪車)を走らせる授業を行いました。

四年生は、今年総合的な学習でヒマワリを栽培し、収穫した種は、バイオディーゼルの実験に取り組む苦工に提供して行きました。搾油器で油を搾り出す作業に続いて、校庭に移動し、ヒマワリの油で動くバイオカーに試乗(表紙写真)。保田英子さんは「予想以上にスピードが出るので驚いた!楽しい」と胸を弾ませていました。



### マッサージュで母と子のコミュニケーション

子育て支援センターで十一月六日、ベビーマッサージの講習会が行われました。

同支援センターを利用している近藤奈々子さん(表町)などお母さんたちが企画。講師に「助産院エクボ」代表・札幌市立大学看護学部講師の高室典子さんを迎え、十五組の親子が参加しました。お母さんたちは、人形を使って説明する先生の話と動きに注目して実践していました。



### 世界に一つ 私が作ったアクセサリー

十一月二十八日、厚真高校で厚高PTA公開講座ナイトサイエンス「とんぼづくり」が行われました。永田敏夫校長先生が指導にあたり、十五人がガスバーナーの火を操り、オリジナルのアクセサリーづくりに取り組みました。親子で参加した前田花歩ちゃん(中央小一年)は「とんぼの目のようだからとんぼ玉って言うんだよ。お母さんと一緒に作れて楽しい」と話していました。

# まちの話題 plus



2年生の国語の授業をする道下先生

## 「今日は中学校の先生がぼくらの先生」

中央小学校（近藤茂校長）で10月30日から11月1日の3日間、厚真中学校の道下靖志教諭が授業を行いました。

小中高一環教育として今年初めて行われた職員交流。道下先生は中学校では理科の先生ですが、小学校では、1年生から6年生まで理科をはじめ国語、算数、体育、音楽などの教鞭をとり、子どもたちも楽しそうに授業を受けていました。道下先生は「子どもたちが純真なので、教えたことがそのまま返ってきますね。改めて指導や発問の仕方など、責任を感じ勉強になりました」と話していました。

## 本郷団地子ども会主催で敬老会

11月23日、本郷マナビィハウスで本郷団地子ども会などが主催し、敬老会が開かれました。20回以上続くこの敬老会に、地域のお年寄り9人が出席し、小学生18人と保護者などが迎えました。子ども会を代表して星野彩加さん（中央小6年）が「今日は一日楽しんでくださいね」とあいさつ。ゲームをしたり民謡などが披露され、楽しいひと時を過ごしました。

来賓として出席した森田定一社会福祉協議会会長が「子ども会が主催し敬老会を催しているのは道内でもめずらしい。このような姿こそが昨今の不幸な出来事を未然に防ぐ姿でないか」と話していました。



あいさつをする星野彩加さん



インストラクターの指導を受ける小学生

## 今年の年越しそばはまかせて！

中央小学校（近藤茂校長）の6年生25人が11月16日、こぶしの湯あつま農産物加工実習室でそば打ち体験をしました。

6年生は、今年の総合的な学習で校地の畑でそばづくりに取り組んでいました。この日は、インストラクター2人から手ほどきをうけ、最初から最後まで自分たちの手で作り上げ、力作のそばに舌鼓を打ちました。寺井志織さんは「粉を混ぜる時はサラサラとした独特な感触。ゆで上がったそばは、ミミズのような形をしていたけどおいしかった」と初めてのそば打ちの感想を話していました。

## 地方だからこそその価値を

11月21日、総合福祉センターで町商工会主催による地域おこし講演会が行われました。

講師に、釧路公立大学教授・地域経済研究センター長の小磯修二さんを迎え、「産消協働と地域経済の活性化」をテーマに講演し、約50人の参加者が熱心に耳を傾けました。小磯さんは講演のなかで「由布院は何も無い町ですが、逆に何も無いからこそ何でもできる。これこそが新しいものを作り出すエネルギーになる」と大分県由布院町のまちおこしに奔走した人の事例などを紹介していました。



小磯先生の講演に耳を傾ける参加者